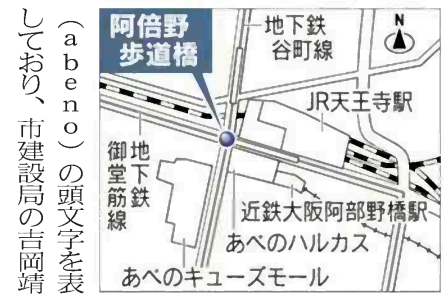


大阪府南部の繁華街・天王寺。地域にある高層ビルから地上を眺めると、アルファベットの「a」の文字が白く浮かび上がる。JR天王寺駅前に架かる「阿倍野歩道橋」は街の中心部を結ぶ役割だけでなく、独特のデザインで不思議な存在感を放っている。

2013年4月に開通した歩道橋は1974年で、中央復建コンサルタンツ（大阪市）と昭和設計（同）の共同企業体が設計した。形状は阿倍野

探 建 再 発 見

阿倍野歩道橋



（abenno）の頭文字を表しており、市建設局の吉岡靖

上から見るとアベノの「a」

記担当係長は「南の玄関口」のランドマークになってほしいとの願いを込めた」と話す。

「あべのハルカス」や「あべのキューズモール」など周辺の商業施設への動線となるなど機能性も兼ね備え、日中の通行量は9万人を越す。

歩道橋としては珍しく、安定性のある三角形をつなげた形に鋼材を組む「トラス構造」

を採用。円形で様々な太さの柱を組み合わせ、歩行者らに圧迫感を与えないようにした。屋根は雨が降るとちりなどを自浄するシート素材で、手入れ作業が省けるといふ。

夜間は照明がともし「屋根から光が透け、全体がライトアップされた感じになる」（吉岡氏）。買い物やビジネスなど多彩な活動の起点は、眺めて楽しむ建築としても街の魅力向上に貢献している。

（大阪社会部 宗像藍子）